

音を素材とした小学生向け環境教育プログラムの開発

0505 大嶋智子
指導教官 市川智史助教授

1. はじめに

本研究の目的は、音に対する気づきを高め、気づきからよりよい音環境の創造（デザイン）に向けた、小学校「総合的な学習の時間」や「音楽」などで利用できる環境教育プログラムを開発することである。

2. 音を取り上げた環境教育の先行事例

『サウンド・エデュケーション』課題1

簡単な課題から始めよう。聞こえた音をすべて紙に書き出しなさい。時間は2、3分でいい。聞こえた音のリストをつくろう。グループの場合は各自の違いに気をつけながら、それぞれのリストを読み上げてみよう。リストはひとりひとり皆違うはず。なぜなら聴くという行為はとても個人的なことだから。長いリストでも短いリストでも、答えはすべて正しい。この簡単な課題は、どこでも誰でもできる。聴くという習慣を身につけるために、いろいろと違った環境のところで、何回かやってみるとよいだろう。

3. 音環境の創造に向けたプログラムの考案

<ねらい>

- ・音に対する気づきを高める。
- ・音を聴くことを通して環境を知る。
- ・騒音問題に対し、音環境の現実を知り、どの音を残し、広め、増やしたいのか、よりよい音環境を創っていくことを示唆する。
- ・表現活動とつなげることで互いの想いを共有し合う。
- ・聴覚を取り上げることで、視覚中心ではなく、五感全てを使って環境を把握することを示唆する。

<対象>

小学校高学年

<プログラムのステップ>

- ①音に対する気づきを高める活動
- ②音未来日記
- ③音タイムカプセル

4. 模擬実践

滋賀大学教育学部環境教育課程1回生を対象とした授業科目「環境教育基礎実験」において、「音未来日記」の模擬実践を行った。実施日時は2003年10月27日、14時30分から16時20分の110分間であった。参加者は17名で3グループに分かれて活動を行った。

5. プログラム改善案と年間計画の提案

小学校高学年を対象とした「音未来日記」の改善案を表1に示す。また、小学校高学年における、音を素材とした環境学習の2年間の授業計画を表2に示す。

6. おわりに

本プログラムは音を取り上げ、五感全てを使って環境を感じることにつなげている。音を取り上げた環境学習の最終的な目的はここにあり、このような実践が浸透していくことを期待したい。

表1 「音未来日記」(改善案)

時間	内容
5分	○作業の説明
5分	○移動
5分	○音聴き →2分間目を閉じて音を聴く。5つ音を発見する。
10分	○音日記を描く。 →聴いた音を画用紙にクレヨンなどを使って自由に表現する。日付を記入する。
15分	○作品の交流 →未来の音環境について話し合う。
15分	○未来に残したい音探し →未来の音世界に響いてほしいと思う音に関係するものを集める。
20分	○音未来日記 →集めたものを利用し、理想の未来の音風景を自由に描く。何年後の何月何日か自由に設定し、日付を記入する。
15分	○作品発表会

表2 年間計画

	第5学年	第6学年
1学期	○連絡帳に音日記コーナーを作る。 ○学校探険、音探険♪	○遠足音絵日記
2学期	○音未来日記 ○音タイムカプセル	○音未来日記
3学期	○冬から春への音探し	○大きな音日記作り ○音アルバム作り ○最後に音タイムカプセルを掘り出すとよい。